

2024年3月31日

3月17日（日）、セントパトリック・デー（St.Patrick's Day）は、アイルランドにキリスト教を広めた守護聖人の命日。アイルランド系移民の多い米国でも、人々は、アイルランドの国花シロツメクサの緑色のものを身に着けて盛大に祝う。シカゴでも、染料を流してシカゴ川を緑色に染め上げた。毎年この時期に、アイルランド首相は米国大統領からホワイトハウスに招かれる。米国が国際社会の縮図であることを改めて実感する日の一つだ。

3月に2回訪問したネブラスカ州では、4大スポーツのプロチームが所在しないため、カレッジ・スポーツが人気。ネブラスカ大学のバスケットチーム「ハスカーズ」で活躍する富永啓生選手は、州内では大谷翔平選手以上の人気と知名度を誇る。ネブラスカ州は同選手を日本ネブラスカ間の親善大使に任命する意向だ。



緑色に染め上げられたシカゴ川



バスケの富永啓生選手

## 1 トウモロコシの皮むき人の州ネブラスカ（NE）

アメリカン・ドリームを夢見た西部開拓者により、壮大なトウモロコシ畑が生まれた。そのトウモロコシを食べて育った高品質なブランド牛でも有名なネブラスカ州。州の愛称は「トウモロコシの皮むき人（Husker）」。

3月2日（土）、ジム・ピレン州知事（共和党）夫妻からの招待を受けて、州議事堂内で行われた州記念日晚餐会に出席した。この「Statehood Day Dinner」は、1867年3月1日にネブラスカが州になったことを記念して開催され、毎年、晚餐会の最後に「優れた州民」数名を顕彰している。400名は参加している十字の空間の中央に位置するメインテーブルにピレン知事夫妻

と共に着席し、参加者紹介の中で、夫妻で名前を呼ばれ、立ち上がって会釈する機会を頂いた。

ピレン知事とは、昨年9月、日本中西部会での夕食会の席で隣同士になり懇談した他、知事からは、能登半島震災に際してのお見舞いの書簡や天皇誕生日祝賀レセプションに際してビデオ・メッセージを頂いている。知事は、農場を経営し、ネブラスカ大学アメフトチーム「ハスカーズ」のディフェンスバックとして活躍したという。



ピレン知事と リケッツ連邦上院議員（前知事）と ベーコン連邦下院議員と

3月20日（水）～22日（金）、ネブラスカ州を再訪。中西部貿易関連団体でのプレゼン、副知事、州議員（全米で唯一の一院制）、大学関係者、オマハ市長等との会談では、（1）NYとワシントンDCの地下鉄車両を生産しているKAWASAKIが10月に創業50周年を迎える、（2）日本人移民・日系人の歴史と、鉄道と農業開発への貢献を伝承する「Japanese Hall」が6月8日に州西部スコッツブラフに開館する、（3）現在の日米パートナーシップを開墾した一人は、大統領として日本を初めて公式訪問したネブラスカ生まれのフォード元大統領である等お話しした。



KAWASAKI

州務長官から「名誉州民」に任命される

プレゼン

## 2 日米スポーツ交流と日米学生交流

3月4日、シカゴ・カブスのトム・リケッツ（ネブラスカ州前知事で現連邦上

院議員の実弟) オーナーに着任挨拶。カブスはこれまで10人の日本人選手を獲得している。今季は、鈴木誠也外野手に加えて、今永昇太投手が加わった。リケッツ・オーナーは、野球への熱い情熱を持ち、昨季後半にめざましい活躍を見せた鈴木外野手と先発としての今永投手への期待、今後の日米野球交流への強い期待を語った。

リケッツ・オーナー自ら、ダッグアウト裏の選手ロッカールーム、控室、最新のトレーニング施設、工夫を凝らしたリラクソコーナーなど、御案内頂いた。「今永投手が投げ、鈴木選手が打ち、カブスが勝つ」ことを期待して、2人の背番号18と27を足した45番のユニフォームをプレゼントして頂いた。



シカゴ・カブス・オーナーと



カブス背番号45番

同じく3月4日(月)、公邸所在地のエヴァンストン市にあるノースウェスタン大学を訪問。同大学は、ケロッグ経営大学院、ジャーナリズム、医学、ロースクールの評価が世界的にも高い。エマニュエル大使も同大学でスピーチとコミュニケーションで修士号を取得しており、その卓越した能力の基礎になっていると拝察する。

まずは学長に着任挨拶。その後、「カケハシ・プロジェクト」で訪日した学生から報告を受けて交流した。学生からは、訪問先の紹介、日米の生活・社会・文化面での違いに関する学生の気付き、訪日後に取り組むアクションプラン等も交えて発表。教諭陣からは、訪日と事後のプレゼンを通じて学生が自分自身と日本語に対する自信を深め、さらなる動機付けになっているとして、高い評価と継続への期待が表明された。参加した学生が将来、日米関係のカケハシになることを期待したい。



NW 大学学長と 「カケハシ・プロジェクト」に参加した大学生との交流

### 3 日本人コミュニティ 日本人学校と日本人会

3月13日（水）、シカゴ双葉会 日本語学校 全日校の卒業式に招いて頂いた。小学6年生14名、中学3年生6名の卒業式。双葉会は、平日の全日校、土曜日の補習校、幼稚園が同一の校舎を共有し、学校関係者はもちろん、商工会議所、学校運営委員会など、様々な方々のご尽力で成り立っている。駐在員と日系企業にとっては、安心して子供を通わせることができる日本語学校・補習校の存在は、貴重なインフラ。在留邦人の安心安全、日系企業支援、そして、日本の将来の観点から、日本人コミュニティ全体で引き続き各地の日本人学校・補習校を盛り立てていきたい。

3月16日（土）、シカゴ日本人会とミルウォーキー日本人会との合同懇談会を開いた。シカゴ日本人会は1993年設立、昨年30周年を迎えた。ミルウォーキー日本人会は設立10年を区切りに一時休止していたが、世代交代を経て最近活動を再開。中西部にある日本人会は、成り立ち、メンバー構成、組織運営、活動状況も様々だ。参加者の一人一人から、自己紹介も兼ねて、組織活動への思いや重視している点、苦労話、アイデアなどを話して頂いた。皆で気付きや閃きを分かち合えたら、そして、これを機会に、両日本人会の方々が繋がれば嬉しい。



業式で祝辞を述べる（シカゴ新報提供）



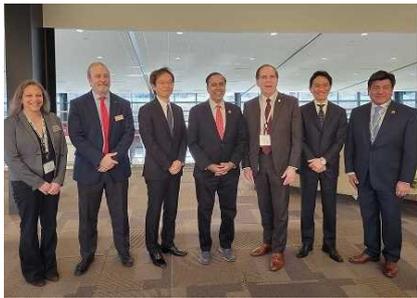
日本人会の方々と

卒

#### 4 「草の根キャラバン」 in シャンバーグ (シカゴ北西部近郊)

15日、日系企業が集積するシカゴ北西近郊のシャンバークに所在する3社（金属加工機器のAMADA、オーラルケアのSUNSTAR、放電加工機のSODICK）を、村長以下シャンバーグ関係者、JETRO、イリノイ州商工会議所会長等と一緒に巡回視察した。「草の根キャラバン」と称し、数年前から中西部で行ってきている取り組みの一環。日系企業の貢献に対する地元米国関係者の理解を深めると同時に、双方向の新たな投資貿易関係拡大を目的としている。

昼食時にクリシュナムルティ連邦下院議員（民主党）も加わり、一行と懇談した。シャンバーグを含む同議員の選挙区イリノイ8区は、約320の日系企業が約1万3千人の雇用を生み出し全米でも屈指の規模。同議員はそれを誇りとしている親ビジネス派。私からは、岸田総理の訪米予定とその意義、日本・中西部経済関係に関する見解をお話した。



連邦議員とADAMAにて



SUNSTARにて



SODICKにて

#### 5 5回目のインディアナ州 (IN) 出張： 知事面会、日米協会主催の会合

3月18日（月）、ホルコム知事（共和党）と面会。昨年9月、11月、今年の1月に続き4回目。私のインディアナ州での活動を報告し、5月の経済関連会合とインディ500（25マイルのコースを200周、計500マイルを走破する世界3大自動車レースの一つ）について意見交換し、そして4月の岸田総理訪米とその意義についてお話した。

各地には文化交流活動を主体としている日米協会が多い中で、インディアナ日米協会（JASI）はビジネス経済関係に力を入れている点で異色。3月19日（火）の「ジャパン・カレント」はJASIの看板年次イベント。今年の焦点は、新技術、新エネルギー、日米同盟の地政学的考察。私からは、（1）超党派の支持を得ている日米同盟の重要性、（2）4月予定の岸田総理米国公式訪問、その意義、（3）日米グローバルパートナーシップの基礎には、長年の投資・経済関係と幾層にも重なる人的関係がある、（4）近年の日本の外交防衛努力

と日本経済社会の復活のメッセージを発信した。

往路、Indiana Packers 社を視察。同社は、三菱商事傘下の豚肉処理・加工品製造会社で、最新鋭設備による厳格な衛生管理の下、豚肉・ベーコン等を生産し、米国と日本向けに販売している。また、IN 州には日本自動車メーカー3社の工場があるが、SUBARU と TOYOTA に続き、今回は HONDA を視察した。



ホルコム知事と



日米協会でプレゼン



HONDA 視察